

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
381	高崎健康福祉大学薬学部細胞生理化学研究室
題名 (原題/訳)	
A pilot trial of the alpha-1 adrenergic antagonist, prazosin, for alcohol dependence. アルコール依存症に対する $\alpha_1$ -アドレナリン拮抗薬プラゾシンのパイロット試験	
執筆者	
Simpson TL, Saxon AJ, Meredith CW, Malte CA, McBride B, Ferguson LC, Gross CA, Hart KL, Raskind M.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Alcohol Clin Exp Res. 33(2): 255-263 (2009)	
キーワード	
アルコール依存症、ノルアドレナリン性、プラゾシン、臨床試験	
要 旨	
<p>背景：</p> <p>現在のアルコール依存症 (AD) に対する薬物療法は限定的な効力しか示さない。これまでに、脳ノルアドレナリン性経路を薬物治療の標的としたものはない。理論的基盤や前臨床試験の結果はノルアドレナリン回路がアルコールの強化や再炎に関与していることを示唆している。それ故我々は、<math>\alpha_1</math>-アドレナリン受容体拮抗薬プラゾシンの AD に対する薬物治療としての効力について検討した。</p> <p>方法：</p> <p>外傷後ストレス障害がない AD 患者 24 名を無作為化し、プラゾシンと対照薬を二重盲検法で 6 週間投与するパイロット試験を行った。薬物治療は 2 週目までに朝 4 mg、夕方 4 mg、就寝時 8 mg となるように用量設定した。被験者は 5 回の薬物療法処置を受けた。被験者は受けた薬物療法を 1 日 3 回記録し、アルコール摂取とアルコールへの欲求、主要な徴候について 1 日 1 回電話で報告した。結果は、1 週当たりの飲酒日、週数で補正した混合直線回帰法で解析した。</p> <p>結果：</p> <p>患者 24 名中、20 名が治療を完了した (83%)。治療を完了した患者のなかで、試験の最後の 3 週間で、プラゾシン投与群の 1 週当たりの飲酒日数は対照群よりも少なかった。無作為化の結果、プラゾシン群の女性は 1 名、治療を完了した女性は 3 名のみであった為、詳細な結果解析は治療を完了した 17 名の男性について実施した。プラゾシン群は試験の最後の 3 週間で、1 週当たりの飲酒日 (対照、<math>5.7 \pm 1.9</math> 日；プラゾシン、<math>0.9 \pm 0.5</math> 日)、飲酒回数 (対照、<math>20.8 \pm 6.5</math> 回；プラゾシン <math>2.6 \pm 1.3</math> 回) で対照群よりも少なかった。有害事象の頻度は対照、プラゾシン群で同じであった。</p> <p>結論：</p> <p>プラゾシンは AD の薬物治療薬として有望であり、より大きな規模での臨床試験でプラゾシンの効果について評価される価値がある。</p>	